

## 有明海湾奥部に放流されたコウライエビ人工種苗の産卵 (予報)

中島則久・皆川 恵\*・伊藤史郎

Spawning of Fleshly Prawn, *Penaeus chinensis* Released in the Innermost Area of Ariake Sound, Japan

Norihisa NAKASHIMA, Megumi MINAGAWA\*, and Shiro ITO

コウライエビ *Penaeus chinensis* は東シナ海および黄海を中心に分布し、クルマエビ類の中でも最も多獲されている種である<sup>1,2)</sup>。佐賀県では有明海におけるコウライエビの栽培漁業の事業化を目的として、1986年から人工種苗の放流を行っている。放流された人工種苗の再生産については、瀬戸内海において交接栓を有する放流個体の再捕が報告されているが<sup>3)</sup>、有明海ではこれまで稚エビの再捕は確認されていない<sup>4)</sup>。本報では有明海における放流個体群の産卵の確認が得られたので報告する。

1997年5月30日、6月4、5日に、大浦漁協栽培漁業センターおよび佐賀県栽培漁業センターで種苗生産された平均全長26mmの種苗469万尾を太良町大浦の道越漁港に放流した(図1)。放流したエビの成熟状況を調査するため、1997年11月から1998年4月の間、月1～3回漁業者から買い上げた個体について体長、体重を測定後卵巣を取り出し、ブアン氏液で固定した。固定後の卵巣は常法に従い、組織切片を作成後、マイヤーのヘマトキシリン、エオジン染色を施し検鏡した。本報では表層棹状体がみられる卵母細胞を有する個体を成熟期、残存成熟卵(崩壊途上でしばしば卵巣腔内にみられる)を有する個体を産卵後期とした。

2月後半から3月後半にかけて成熟期あるいは産卵後期の卵巣を有する個体を確認した(図2)。従って、本種の人工種苗は放流された有明海において成熟、産卵していることが明らかとなった。今後、有明海における成熟過程や産卵期等の繁殖生態について資料の蓄積を図って行く予定である。

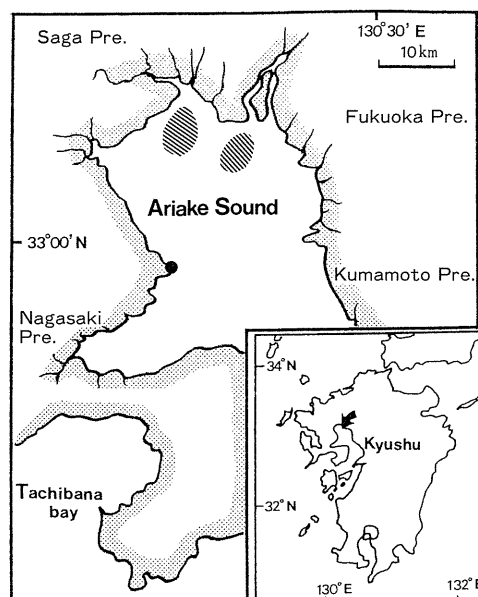


図1 コウライエビの放流地点(●)と主な再捕海域(◎)

## 文 献

- 1) 林 健一 1996: 1. 分類と分布, エビ・カニ類の増養殖(橋高二郎・隆島史夫・金澤昭夫編), 1-32.
- 2) 林 健一 1992: 日本産エビ類の分布と生態, 300.
- 3) 原 健一・檜山節久・大内俊彦・田村 灝 1969: コウライエビ種苗の移植放流について(1), 山口内海水試調研業績, 18 (1), 1-9.
- 4) 佐賀県有明水産振興センター 1996: 平成7年度放流技術開発事業報告書 コウライエビ, 39.

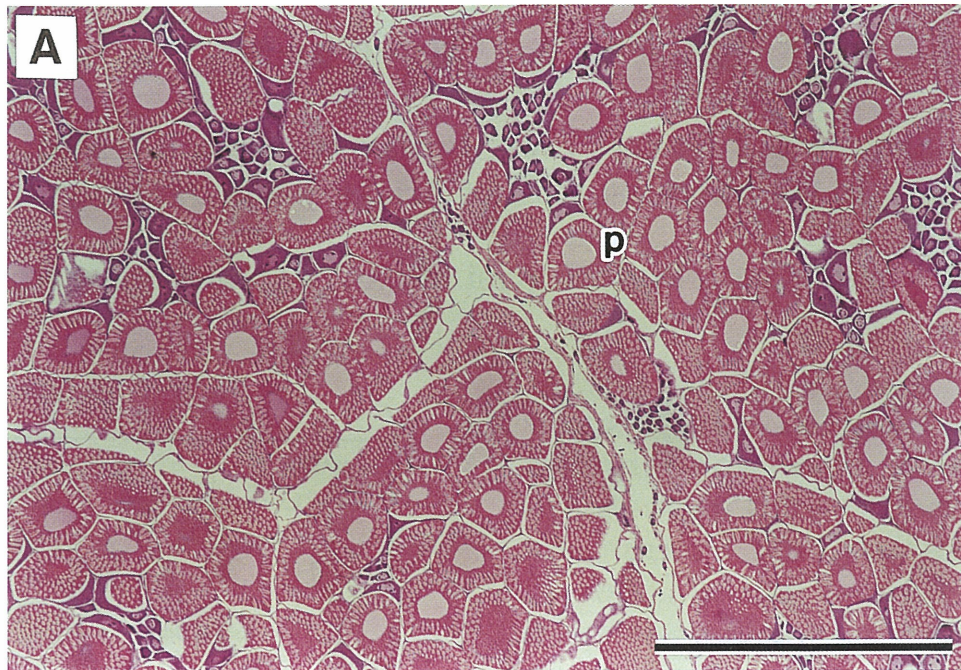


図2 A：成熟期の卵巣。卵巣は前成熟の卵母細胞（p）で充満している。  
 B：産卵後期の卵巣。産卵後の残存成熟卵（r）が認められる。矢印は卵黄蓄積途上の卵母細胞。  
 スケールはいずれも1 mm.